

「俳句を楽しもう」（国語科）学習指導案

1. 日時 令和〇年〇月〇日（〇）

2. 場所 〇〇〇教室

3. 学部・学年・組 中学部 第2学年Bグループ

4. 単元（題材）名 「俳句を楽しもう」

5. 単元（題材）目標

- ・俳句の決まりを理解し、創作を楽しむことができる。（知識及び技能）
- ・決められたテーマに沿って、言葉を選んで俳句をつくることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・自分のつくった俳句を発表し、交流することができる。（学びに向かう力、人間性等）

6. 生徒観 略

7. 教材観

1学期に七五調の文章に取り組んだ際、生徒たちから「五七五みたい」という発言があった。このことから、生徒たちも知っている俳句を教材として選んだ。俳句は日本独自の短い定型詩であり、身の回りのことや季節のことが限られた文字数で表現されている。季節を表す季語など、様々な表現に触れることで、気持ちや様子がより伝わる表現を身につけることをめざす。また、最後につくった作品を発表し、互いの作品の良いところを伝え合うことで、感じたことや考えたことを自由に表現する創作活動の楽しさを経験し、書くことへの意欲につなげたい。加えて、文字数が一句あたり十七文字程度とこれまで取り組んできた詩と比べると少ないことから、短時間の作業であれば集中して取り組むことができる生徒たちが書くことの経験を断続的に積み、丁寧に文字を書くことに適していると考えたため、この教材を選んだ。

8. 指導観

本単元では、まず生徒たちに俳句がどのようなものかを知ることから始める。実際にいろいろな年代の人が読んだ俳句を例に出しながら、季語などの決まり事を確認する。スライドを使って、色分けをしながら視覚的にわかりやすく示すことで、理解を促すようにする。

次に、季語や俳句の一部の穴埋めをクイズ形式で行う中で様々な俳句に触れ、表現方法のレパートリーを増やせるようにする。あらかじめ教員が用意した言葉の選択肢から選べるようにすることで、生徒たちが創作活動への手がかりを得られるように工夫する。また、生徒たちと同年代の子どもがつくった俳句を使うことで、生徒たちが想像しやすいように工夫する。

最後は自分でテーマを決め、教員が用意した選択肢から言葉を選び、俳句を一人一句完成することをめざす。つくった俳句は画用紙に清書し、発表する。この時、発表の仕方や具体的な声の大きさを提示しておくことで、生徒たちが自信をもって発表に取り組めるようにする。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①俳句を通して、季語などのきまりを身につける。	①テーマにあった言葉を選び、組み合わせで俳句をつくることができる。	①つくった俳句の交流を楽しもうとしている。
②言葉の響きやリズムを感じ、創作することができる。	②どこで区切ると読みやすいかを考えて音読できる。	②季語や俳句に親しむことができる。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間、本時は第4時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	1	・音読 ・俳句のきまり	・リズムを味わいながら音読し、季語など俳句のきまりを知る。	・上五、中七など、俳句独特の呼び方を確認する。 ・生徒たちが情景を想像しやすい作品を選ぶ。	B② C②
	2	・俳句クイズ	・実際にある俳句の一部を虫食いにし、五音・七音で穴埋めする。	・3つほど選択肢を用意し、選べるようにする。 ・季語をまとめたプリントを用意し、どの季節の季語か確認しながら進める。	A① B①
	3	・俳句づくり①	・五音・七音のカードから好きなものを選び、テーマに沿った俳句をつくる。 ・全員の俳句を掲示し、いいと思った俳句に投票する。	・最初は上五・中七・下五のいずれか一部を提示しておくなどして、難易度を下げる。 ・前に生徒たちの作品を提示し、投票しやすいようにする。	B① C②

	4 本時	・俳句づくり②	・五音・七音のカードから好きなものを選び、テーマに沿った俳句をつくる。	・テーマにあった季語を提示するなどして、選びやすいようにする。 ・発表の形を提示し、自信をもって発表できるようにする。	B① C①
2	5	・俳句づくり③	・自由にテーマを決め、①②と同じ方法で俳句をつくる。	・カードにあるものの以外の言葉も使って俳句をつくれるよう言葉かけを行う。 ・文字を丁寧に書けるよう言葉かけを行う。	A② B① C①
3	6	・発表会	・つくった俳句を発表し、友だちの作品の良いところを見つける。	・発表の見本を用意し、自信をもって発表しやすいようにする。	A① C①

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・テーマにあった言葉を選んで組み合わせ、俳句をつくることができる。(思・判・表)
- ・つくった俳句を発表して交流し、創作活動を楽しもうとしている。(学・人)

(2) 本時の評価規準

- ・言葉を組み合わせ、俳句をつくることができる。(B①)
- ・受け手のことを意識して作品交流をすることができる。(C①)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・タブレット端末
- ・プロジェクター、ケーブル
- ・プリント

(4) 生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
3分 導 入	・あいさつ、出席確認 ・授業内容の確認	・授業の始まりを意識できるようにする。 ・授業の流れを前に提示し、見通しを持てるようにする。	
28分 展 開	・スライド（5分） 前回までの学習内容を確認する。 ・俳句づくり（15分） テーマを伝え、選択肢から言葉を選んで俳句をつくる。 用紙に清書する。 ・発表（8分）	・俳句のきまりなど、視覚的に示しながら確認できるようにする。 ・テーマを前に提示しておく。 ・タイマーが見えるようにしておき、残り時間を意識して取り組めるようにする。 ⇒T2は自由に考えることがにがてな生徒を確認し、言葉かけを行う。 ・教員が見本を見せ、声の大きさや発表の方法などを確認できるようにする。 ⇒T2は集中が途切れやすい生徒の傍につき、適宜言葉かけを行う。	・テーマにあった言葉を選んで組み立て、俳句をつくることができる。(B①) ・相手の聞きやすい声を意識して、作品交流を楽しむことができる。
2分 ま と め	・まとめ、次回予告 ・あいさつ		

(6) 教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

